

# 平和への願い

大阪府 相愛中学校 二年

かくたに みく  
角谷 美玖

「ドン」という戦争映画のような音がテレビから聞こえた。映像には、ウクライナの人々を攻撃しているロシア兵の姿が映っていた。もう戦争は起こしてはならないと、学校の授業で教わっていた私は、その映像を見て、戦争は二度と起こらないものだと思解していたのかもしれないと思った。

このロシアとウクライナの争いをきっかけに、私は母から戦争に行っていた曾祖父とその時代を生き抜いた曾祖母の話を聞いた。曾祖父は、戦争の話をしたがらない人だったそう。だから母は、家族に家では戦争の話をしてほしくないように言われていたそう。何十年たってもその頃の記憶にふたをしなければならぬ曾祖父が、どんな辛い思いをしたのか、私には想像もつかなかつた。また、曾祖母は、戦中戦後と戦死した兄に代わり、姪を三人育てたそう。毎日が生きることだけに精一杯だった曾祖

母は、母に、「おばあちゃんには、娘時代がなかったんよ。だから、あなたは娘時代を楽しんでね。」と言ったそう。この話を聞いて、戦時中の人々が、自分の人生なのに自分で選べなかつたのだということを知り、今の私の生活のありがたさや、悩みの小ささを思い知らされた。

戦争は失うものが多いと思う。人間以外の生き物は戦争をしない。なぜ人間だけが、人間の大人だけが争うことを止められないのか。大人なんだから、なぜ話し合いで解決できないのか。私にはわからないことばかりだ。そして、戦争を止める方法も私にはわからない。でも、自分のことだけを考えるのをやめ、お互いがお互いを尊重しあえた時、みんなが幸せになれるはずだと思うのだ。そのことに気づき、当たり前前の日常が早く戻りますように。そう願っている。